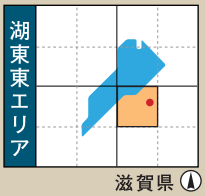
天然記念物

国指定

北花沢（きたはなざわ）のハナノキ

湖東町北花沢　大正10年3月3日指定



湖東町内にある2本のハナノキのうちの一つで、聖徳太子お手植えの伝承があります。現在、指定木の周辺に3本のハナノキが移植され、これも巨木に育ち、この地がハナノキの生育環境として相応しいものであることがわかります。ハナノキにとって快適な環境は私たちにとっても快適な環境です。この環境を今より悪くせず、ハナノキと共に永く生きてゆきたいものです。

ハナノキについて②

（学習シートNo.119からの続き）

ハナノキの樹皮は暗灰色で滑らか。葉は対性で長い葉柄が付き、秋には美しく紅葉します。雌雄異株の植物で、南花沢、北花沢の両指定木とも雄樹なので、種子はできません。花は4月頃に葉に先駆けて2年枝から蕾が発生し、暗紅色の小さな花を密生させて開きます。「ハナノキ」の名は、少し変わったこの花の様子からとられたものです。

自生するものは湿地を好みます。両花沢の樹の側には池があり、かつてここは、水が豊富に湧き出る場所で、ハナノキの生育環境として、相応しい場所であったことがわかります。しかし、現在は、湧水も減り、横を国道307号線が走り、車の往来も激しいことから、乾燥と大気汚染に弱いハナノキの今後が懸念される環境となっています。



北花沢のハナノキ



北花沢のハナノキ　一番右が指定木



北花沢のハナノキ　一番右が指定木



北花沢のハナノキ

北花沢のハナノキ

『北花沢共有文書』によれば、文政12年（1829）に彦根藩主第11代井伊直中公が、佐土根山に天寧寺を建立し、本尊新彫に際して、花沢の霊木を求めたが、庄屋甚五兵衛が折れた枝を献上したところ満足してこれで本尊を彫刻、天寧寺に安置し、残った木を利用して地蔵菩薩を彫刻し、甚五兵衛に与えたという記録が残されています。ハナノキが、聖徳太子ゆかりの霊木として当時の人達に敬われていた様子がよくわかります。

昭和25年（1950)のジェーン台風で倒れましたが、その後、保護の手が加えられ、樹勢を回復しつつあります。推定樹齢は南花沢のものよりやや古く、300年以上と推定されています。

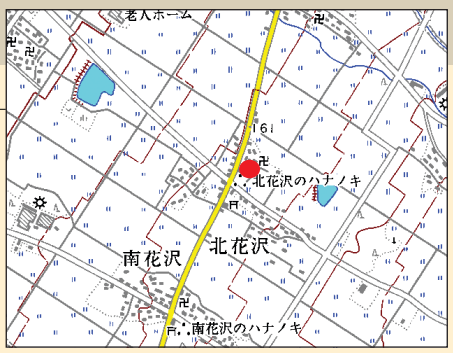
関連する文化財

南花沢のハナノキ	学習シートNo.119
新野のハナノキ自生地（長野県阿南町）	湿地帯が自生地となっていたが、近年改修され植え替えなどが行われている
坂本のハナノキ自生地（岐阜県中津川市）	疎林の中に散在し20株以上のハナノキを見ることができる。ハナノキの自生が確認された最初の場所である
越原ハナノキ自生地（岐阜県東白川村）	標高700mの山林中に目通り30cm以上の木が20本以上生育する。自生ハナノキの分布最北端に当たる
弥蔵薙ハナノキ（岐阜県付知町）	雑木林の中に生える単独樹。目通り3.15m、高さ15mの巨樹である

もっと深く知りたい

湖東町教育委員会　☎0749-45-0511　愛知郡湖東町池庄505

北花沢のハナノキへのアクセス　名神高速道路　八日市インター



【参考文献】〔日本の天然記念物〕講談社 〔滋賀縣天然記念物調査報告〕滋賀縣保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月